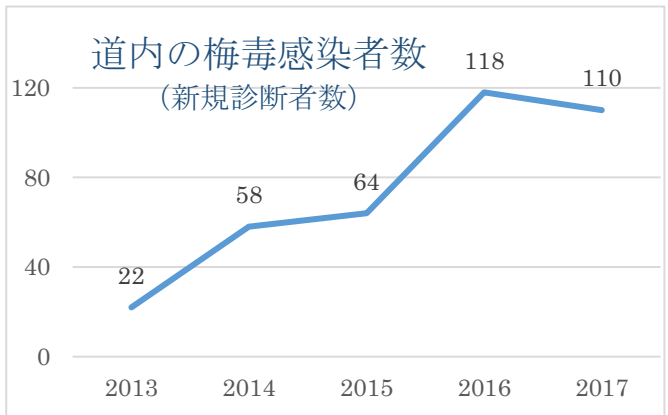


“梅毒”とは

全国的に梅毒患者の増加が報告されています。北海道でも近年感染者数が増加しています。



梅毒は…

- ◇ 梅毒トレポネーマという細菌の感染によって生じる性感染症（STD）です。
- ◇ 症状が出ない場合もあるため、いつの間にか相手に感染させていることがあります。
- ◇ 感染から早期に投薬治療を受けることで治ります。
- ◇ 治っても何度でも感染を繰り返す可能性がありますので、パートナーと一緒に治療する必要があります。
- ◇ 治療せずに放置すると、全身に症状が出て命に関わることもあります。
- ◇ 感染したまま妊娠すると、胎児に感染し死産や胎児に重い障がいが出る場合があります。
- ◇ 症状が多彩で他疾患に間違われる場合があります。

どうやって感染する？

- 胎児の時に子宮内で母親から感染。
- 性行為等により、皮膚、粘膜の微細な傷口から感染する。
- キスでも感染の可能性があります。

※ 精液、血液、膣分泌液、皮膚のただれ等から感染します。一般の生活での接触程度では感染する心配は、ほとんどありません。

梅毒にかからないためには

- 性行為をするときはコンドームを使用しましょう。
- 口や傷口からの感染もあるので、気をつけましょう。

梅毒の症状

感染した日

- 症状はありません。

第1期

(概ね3週間～3ヶ月)

- 唇、口の中、陰部、肛門等にしこりができます。痛みがなく、あっても軽いので自覚しないことがあります。
- しこりが腫れて潰瘍になることもあります。
- 治療をしなくても自然に消えたりすることがあります。

数ヶ月後

(概ね3ヶ月～3年)

- 発熱、頭痛などの症状が現れます。
- 手や足の裏を中心に全身に痛みやかゆみのない赤い発疹が出ます。
- しばらくすると自然に消えます。

数年後

(概ね3年～10年以上)

- 皮膚に大きめのしこりが出てきます。
- 心臓、血管、脳などの臓器がただれ、死に至ることもあります。

HIV との関係

- 梅毒とHIV感染はどちらも性行為で感染するため、重複感染の可能性があります。HIVは、もともと感染力が弱いウイルスなのですが、梅毒で粘膜に傷や潰瘍があるとHIVに感染する確率が高くなります。

梅毒の流行を止めるためには早期診断・早期治療が重要となります。

梅毒は色々な症状が現れるため、少しでも疑わしい症状があれば医療機関に受診してください。